



佑啓

共に来た道、続く道

行場 貴子

ゆうけい
発行者
社会福祉法人 佑啓会
理事長 里見 吉英
〒290-0265
千葉県市原市今富 1110-1
TEL 0436-36-7611
FAX 0436-36-7612
編集者 広報委員会

平成十八年四月からの運営に先立つて、一月から三月までの三ヶ月間、並行運営の機会をいただきました。大塚・小石川それぞれ二名ずつ四名の佑啓会職員が文京区の職員と一緒に働きながら、利用

過ごし下さい。一週間お疲れされました」毎週金曜日の終礼当番の挨拶で一週間が締めくされます。ここ最近「あれ、つい二、三日前に聞いたように感じるが、もう一週間経ったか」と月日が経つ速さに驚くことが多くなってきました。そのような私に、大塚・小石川福祉作業所の運営開始から二十年経つ感想をお願いしますと、広報委員から原稿依頼があり、まさに「ええ」という感じでした。二十年という月日の重さを語るには、心許ないです、自分自身への振り返りとして綴つてみたいと思います。

「皆さん、どうぞ良い週末をお過ごし下さい。一週間お疲れされました」毎週金曜日の終礼当番の挨拶で一週間が締めくられます。ここ最近「あれ、つい二、三日前に聞いたように感じるが、もう一週間経ったか」と月日が経つ速さに驚くことが多くなってきました。そのような私に、大塚・小石川福祉作業所の運営開始から二十年経つ感想をお願いしますと、広報委員から原稿依頼があり、まさに「ええ」という感じでした。二十年という月日の重さを語るには、心許ないです、自分自身への振り返りとして綴つてみたいと思います。

過ごし下さい。一週間お疲れされました」毎週金曜日の終礼当番の挨拶で一週間が締めくされます。ここ最近「あれ、つい二、三日前に聞いたように感じるが、もう一週間経ったか」と月日が経つ速さに驚くことが多くなってきました。そのような私に、大塚・小石川福祉作業所の運営開始から二十年経つ感想をお願いしますと、広報委員から原稿依頼があり、まさに「ええ」という感じでした。二十年という月日の重さを語るには、心許ないです、自分自身への振り返りとして綴つてみたいと思います。

者に関することはもとより作業所の歴史や受注作業について、業者さんや区内施設、地域町会への挨拶、フォークリフトや折り機など備品機器の使い方などなど、細部にわたってご指導をいただきました。並行運営の初日は、利用者との新年会及び成人者のお祝い会でした。少し緊張した新成人三名を囲みながらのお祝い会は、職員余興の手品やハンドベル演奏など手作り感あふれるとてもアットホームで、温かな雰囲気だったことを思い出します。翌日からは日課に沿つて利用者と一緒に過ごしながら受注作業を中心進め方などのレクチャーを受けました。利用者が降所した後は、利用者一人ひとりについて各担当者から詳細な説明を行い、ある程度の人物像を把握することができました。また、折り機など受注作業に欠かせない機器の取り扱い方なども懇切丁寧に教えていただきました。飲み込みが悪く不器用な私は、本の力ばかりに毎日四苦八苦したこと、つば祭り」も例年の秋ではなく二月に設定していただき、お祭り担

がスタートしました。当初利用者は男性十八名、女性十六名の合計三十四名で、職員は総合職六名、専門員四名、看護師一名の構成でした。しばらくは利用者が混乱なことを第一に考えました。支援、日課や業務の組み立ても、急な変化での戸惑いを避ける観点から区の職員からの引き継ぎを踏襲しながら進めました。



れました。まだ二、三年目の私は何のにも代え難いものです。樂しいこと、嬉しいことが大半ですが、どういう訳か私の心に深く刻まれていることは、つらく悲しい出来事のようです。

小グループで出かけた観劇会の帰り、一人の利用者を地下鉄駅構内で見失い、悶々として過ごしました。丸一昼夜。そして、無事に保護された瞬間の言葉では言い表すことができない気持ちは忘れられません。今でも、外出や旅行の際にはこのことを教訓として臨んでいます。そして、その四日後に起きた東日本大震災、コロナウイルス、ノロウイルスの蔓延などが去来します。

東日本大震災は、午後の休憩時間のことでした。利用者はゆつたりとくつろいでいた際の出来事で、大きな揺れに一様に驚きましたが、皆さん比較的落ち着いて職員の声掛けに従つて机の下に身を隠すなど避難訓練を思い出しながら、迅速な行動をとっていました。丁度小学校の下校時間と重なり、作業所前の道路でうずくまつていた子ども達を作業所内に誘導したことなどを記憶しています。未曾有の大災害でしたが、利用者・保護者の皆さん全員無事だったことにただただ安堵いたしました。

コロナ禍では感染対策の一環とは言え、閉所や分散通所を余儀なくされています。残念ながら在籍中に悲しい感想も聞かれました。丁度し

ぜん工房では利用者、家族や行政の方を対象の研修会・交流会が開催されており、そちらへも合流してもらいました。和気あいあいと健気さに常に救われ励ました。日々で並行運営の三ヶ月は無我夢中で瞬く間に過ぎていきました。

そして、四月。佑啓会での運営がスタートしました。当初利用者が男性十八名、女性十六名の合計三十四名で、職員は総合職六名、専門員四名、看護師一名の構成でした。しばらくは利用者が混乱なことを第一に考えました。支援、日課や業務の組み立ても、急な変化での戸惑いを避ける観点から区の職員からの引き継ぎを踏襲しながら進めました。

小グループで出かけた観劇会の帰り、一人の利用者を地下鉄駅構内で見失い、悶々として過ごしました。丸一昼夜。そして、無事に保護された瞬間の言葉では言い表すことができない気持ちは忘れられません。今でも、外出や旅行の際にはこのことを教訓として臨んでいます。そして、その四日後に起きた東日本大震災、コロナウイルス、ノロウイルスの蔓延などが去来します。

東日本大震災は、午後の休憩時間のことでした。利用者はゆつたりとくつろいでいた際の出来事で、大きな揺れに一様に驚きましたが、皆さん比較的落ち着いて職員の声掛けに従つて机の下に身を隠すなど避難訓練を思い出しながら、迅速な行動をとっていました。丁度小学校の下校時間と重なり、作業所前の道路でうずくまつていた子ども達を作業所内に誘導したことなどを記憶しています。未曾有の大災害でしたが、利用者・保護者の皆さん全員無事だったことにただただ安堵いたしました。



「カレイ」の文字がパッとく見えないもの、形のないものゝ愛情、絆、信仰などを大切にしてきました。そうした思いをお互いに強く持つて生きることの大切さを、人とのつながりが希薄になつてきている現代、改めて教えられました。まだ二、三年目の私は、これまでいることとは、つらく悲しい出来事のようです。

小グループで出かけた観劇会の帰り、一人の利用者を地下鉄駅構内で見失い、悶々として過ごしました。丸一昼夜。そして、無事に保護された瞬間の言葉では言い表すことができない気持ちは忘れられません。今でも、外出や旅行の際にはこのことを教訓として臨んでいます。そして、その四日後に起きた東日本大震災、コロナウイルス、ノロウイルスの蔓延などが去来します。

「カレイ」の文字がパッとく見えないもの、形のないものゝ愛情、絆、信仰などを大切にしてきました。そうした思いをお互いに強く持つて生きることの大切さを、人とのつながりが希薄になつてきている現代、改めて教えられました。まだ二、三年目の私は、これまでいることとは、つらく悲しい出来事のようです。

小グループで出かけた観劇会の帰り、一人の利用者を地下鉄駅構内で見失い、悶々として過ごしました。丸一昼夜。そして、無事に保護された瞬間の言葉では言い表すことができない気持ちは忘れられません。今でも、外出や旅行の際にはこのことを教訓として臨んでいます。そして、その四日後に起きた東日本大震災、コロナウイルス、ノロウイルスの蔓延などが去来します。

「カレイ」の文字がパッとく見えないもの、形のないものゝ愛情、絆、信仰などを大切にしてきました。そうした思いをお互いに強く持つて生きることの大切さを、人とのつながりが希薄になつてきている現代、改めて教えられました。まだ二、三年目の私は、これまでいることとは、つらく悲しい出来事のようです。

小グループで出かけた観劇会の帰り、一人の利用者を地下鉄駅構内で見失い、悶々として過ごしました。丸一昼夜。そして、無事に保護された瞬間の言葉では言い表すことができない気持ちは忘れられません。今でも、外出や旅行の際にはこのことを教訓として臨んでいます。そして、その四日後に起きた東日本大震災、コロナウイルス、ノロウイルスの蔓延などが去来します。

キッズガーデンとの出会い

大竹 敏恵



市原市の児童発達支援センターに相談し、テストを受け、認知・適応・言語・社会性が実年齢よりも一年歳六ヶ月遅れている発達障害と知ったのが今年の一月末でした。それから、障害のある子が通える施設を探しましたが、見つからず、悩み不安に圧し潰されそうなとき、ふる里学

コロナ禍での出産・子育てということで、親子教室・子育て支援施設などの利用が難しく、同世代の子供とのふれ合いもなく、息子の発達の遅さにさほど気にもとめていませんでした。私自身育休を取っていたこともあり、保育園への通園を希望していましたが、なかなか受からず、所属していない子が通える一時預かり所を利用していました。言葉が周りの子に比べて遅いな、興味がないことに対して椅子に座つていられないなんだよ、という言葉に安心して成長すれば落ち着き、言葉も出でてくるとそう思っていました。四月からは年少になるので、同世代の子供たちとのふれ合い・集団生活を経験させたく幼稚園も検討し、驚愕しました。もちろん入園することはできませんでした。

舍五井キッズガーデンに出会いました。説明会当日、場所見知り人見知りするのではないか、幼稚園の面接時の光景が脳裏に浮かびました。しかし、嫌がらず先生やお友達と楽しそうな様子を見て、たいへん驚きました。子供の本能が「ここは大丈夫だと思います。こちらでお世話になりました。面接をお願いし、受け入れてくださったことなども感謝しております。



あつという間に七ヶ月が過ぎました。お友達と一緒に充実した日々を過ごせる環境を整えていただき、たくさん愛情を注いでくださる素晴らしい先生方に恵まれ、キッズガーデンとの出会いは私たち家族にとって、かけがえのない宝物になりました。これからも、子供たちとともに学び、笑い、楽しく、のびのび成長していくことを願っています。温かいご指導、よろしくお願ひいたします。



（ふる里学舎五井キッズガーデン 保護者）

佑啓会が地域貢献の一環として立ち上げた少年野球チーム「青葉台ユーチーズ」は、令和六年六月の開設から約一年半が経過し、現在三十二名の子供たちが元気に活動しています。チーム最大の特徴は、保護者の負担がなく、野球をやりたい子供たちが野球に専念できる環境を目指しています。指導は「ふる里学舎野球部」のメンバーが全面的に担当し、毎週青葉台小学校のグラウンドやふる里学舎杜のホール（体育館）で白球を追いかけています。

少年野球チーム



（チームスローガンは「配気配心（気を配り、心を配れ）」。これは、「楽しかったから入りたい」と、息子たちと一緒に全力で楽しんでいたいと思います。今後も、地域に根差した活動として、子供たちと一緒に全力で楽しんでいたいと思います。）

ユーチーズ公式 Instagram



ユーチーズと蒼太の一年

岡 陽平

息子の蒼太がユーチーズに入部して、早くも一年が経ちました。令和六年九月に体験入部を経て、十月に正式に入部。以前、年少（年中）は幼稚園のサッカークラブに所属していました。サッカーを辞めた理由は、「走つてばかりで嫌だった」とのことで、親としては、サッカーでは自分の思うようにボールを扱えず、上手な子が優位に立つ場面が多かつた印象です。ボールを奪い合うことが苦手だったようですが、野球では自分の思い通りにバットを振り、ボールを飛ばせることに喜びを感じています。

（ユーチーズ 保護者）

息子は試合形式の練習で速いボールを止めたりアウトを取ったとき、誰よりも嬉しそうに喜びます。コートに褒められると、その喜びが自信となり、練習後も、「もっとキヤッチボールしよう」と積極的に声をかけます。その笑顔に癒されています。私は学生時代から社会人までサッカーしか経験がなく、野球は未経験です。簡単な知識やルールは分かりますが、深い知識がなく、SNSでは様々な教え方があり、どれが正解か迷うことが多いので、なるべく一緒に練習に参加し、コーチや監督の教えを見ながら家でも息子に伝えていました。

△編集後記△

（ユーチーズ 保護者）

つい先日まで「暑い」と言つてたのが嘘のよう、気が付けば寒風に染みる年の瀬を迎えていました。今年も佑啓会は様々な活動をして、利用者・職員の笑顔に包まれる一年となりました。来年も良い年になります。今年も佑啓会は様々な活動をして、利用者・職員の笑顔に包まれる一年となりました。良いお年をお迎えください。



えています。息子も頑張っています。が、私もルールを覚えながら楽しめます。